

リバースポーツの推進、耕作放棄地対策、相談体制づくり、産婦人科の復活、教育のまちづくりなどの質問がありました

**質問** 白石川右岸河川敷の整備は進んでいるが、景観として左岸の林をきれいにするとロケーションがよい。

**回答** 河川敷整備において多くの要望を県にあげていますが、左岸の雑木伐採も県に要望していきます。



▲白石川に集まるリバースポーツを楽しむ方々

**質問** リバースポーツを進めることで年間観光につながっていくものと思う。

**回答** カヌーに乗る方々から、川から見る桜は日本一だと言われました。リバースポーツの可能性は中州の撤去にも繋がりますが、多くのアイデアを得ながら取り組んでいきたいと思えます。

**質問** 耕作放棄地の笹の葉が交通の妨げになっていたが、町が地権者に交渉し解消された。他の耕作放棄地も積極的に話してほしい。

**回答** 耕作放棄地対応として地主への働きかけを進め、土地活用の拡大につなげていきます。

**質問** 過去、内水氾濫のあった場所にマーキングをして住民へ示してはどうか。

**回答** 過去のデータがそろっていない状態ですので、データが蓄積したうえで考えていきたいと思えます。

指定避難所の確認、障がい者のスポーツ機会、肥満傾向児の対策、第一優先とする河川敷整備等の質問がありました

**質問** 指定避難所となっている県を含めた学校施設等が、年月が経過すると施設側の認識が薄くならないか心配。認識を高める方が必要では。

**回答** 学校施設等に町の意図が伝わるように、避難体制の確立を目指して声掛けしていきます。

**質問** スポーツによるまちづくりとして、障がい者も参加できるように、すべてのかたができるものが必要と考える。

**回答** 体を動かすことをスポーツととらえ、すべてのかたが触れる機会を設けていきます。河川敷整備の中でも配慮して対応できる姿勢を示していければと思います。

**質問** 学年別肥満傾向児が多い要因は？

**回答** コロナ禍により運動する機会が減り、運動する子としない



子の2極化となっています。学校でも外遊びが減っています。仙台大学と連携して体力づくりを進めていきます。

**質問** 小さな公園はあるが、一日半日遊べる大きな公園がほしい。

**回答** 大河原公園が大きい公園にとらえられていないのは残念ですが、意識されていない点で課題ととらえています。トイレがないなどを含め、多くの声に基づき調査をして整備を検討します。

**質問** 家庭内の複雑・多様化している相談支援を行う「重層的支援体制」、妊産婦から子育て世帯子どもへの一体的な相談を行う「こども家庭センター」に関して役場内連携が重要。

**回答** 新たな相談体制の設置、組織づくりの強化がわかるように、担当課が共に業務にあたる執務場所、ハード的な整備も含めて検討していきます。



**質問** 県南の産婦人科医が少ない。中核病院の産婦人科医はどうなつたか。

**回答** 分娩できる病院がない場合、子どもを持つ意欲が削がれるという調査結果があります。中核病院での分娩復活が住民の強い要望、行政課題と受け止めています。様々な分娩復活できるよう努めます。

**質問** 地区で親子会や若い世代をどう引引っ張っていくか。代々自分の親から教えられ、その子がいろいろな体験の中で成長する。地区で子どもたちの体験にいろいろな大人が絡み、成長する。地域力につながる。教育のまちづくりを一緒に考えていただきたい。

**回答** 体験活動を通して子どもたちの成長に繋げ、その子どもたちが大人としての自覚をもって自分事として町の課題解決に向かっていくと感じます。地区活動が、家庭、地域、まちづくりに繋がるものとして、今やれる一つひとつの取組みを共に地道に積み重ねていきましょう。

**質問** なぜ、Well-beingなまちづくりにより白石川右岸河川敷等整備が第一優先なのかかわらない。どう運営？整備費は？維持管理費は？収益は？理解できない。

**回答** これまでも広報紙や議会を通し、白石川右岸河川敷等整備に関して発信してきましたが、Well-beingなまちづくりとは心身と社会が健康で幸福な状態が継続する、どこも自治体にあっても波及していく、行政の使命であります。幸せの実現として、本町の特長を活かしていくうえで、健康意識を伸ばす、桜のある景観づくり、身体を動かし交流が図れる、そんな空間ができればと整備してきました。仙南の中心であり、利便性、拠点性を担い、広域的な視点で地域と地域をつなぐ役割を担える本町だからこそ手掛けられる政策として進めているものです。

**質問** 河川敷整備、今後も含めて総額18億円かかると聞いている。賑わい交流拠点施設が整備され、どう利益をあげていくのか。

■閉会のあいさつ  
「スポーツを活用したWell-beingなまちづくり」に対し、スポーツ庁から表彰を受けました。町として「Well-being」という言葉を、これからのまちづくりのキーワード、パワーワードにしたいと考えています。皆さんが健康で幸福でいられる状況を社会全体で作りに上げることができれば、まちの将来像である「ひと・まち・桜が咲きほこる先進のまち」になれると思います。「Well-beingなまちづくり」をご理解いただきまして、一緒にまちづくりに参加いただきますようお願いいたします。

問合せ▼政策企画課企画振興係  
(2階①番窓口)  
☎02224-5312112